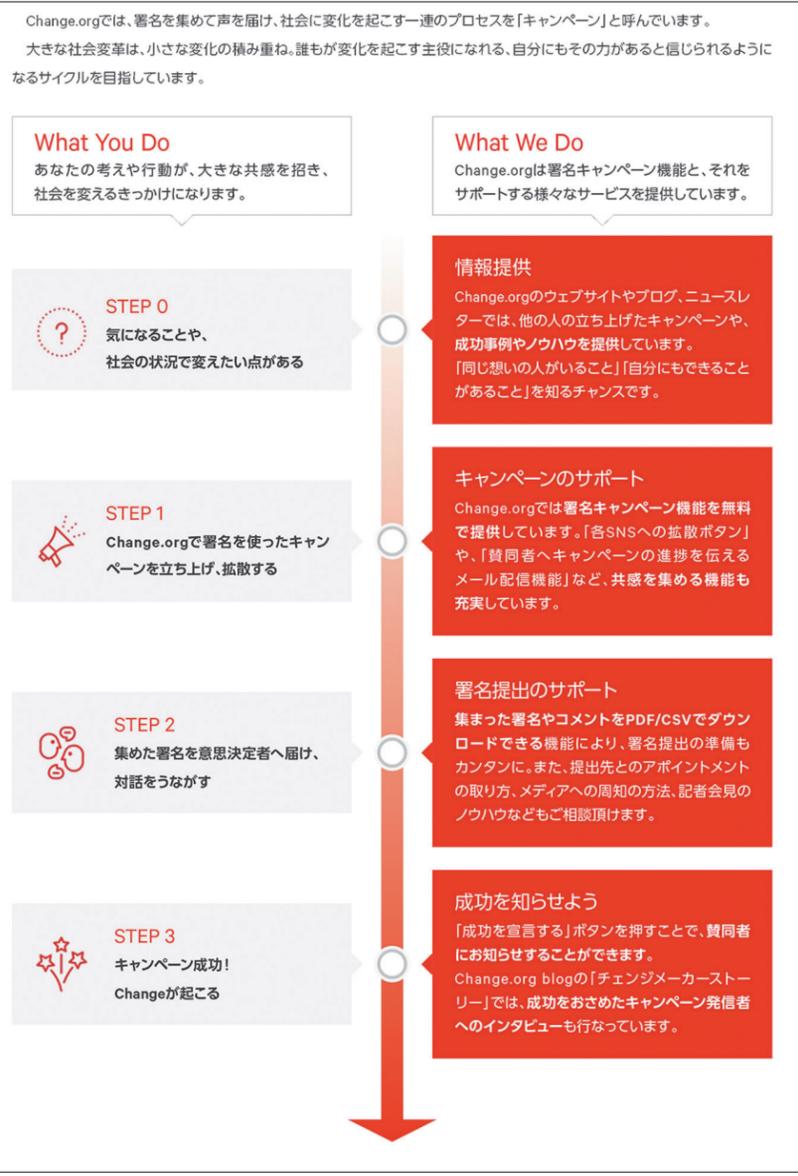


頭言

チェンジ・ドット・オーグ 武村若葉氏が語る 声を上げ変わる社会を目指す

を「ネット署名」で応援



チェンジドットオーグを活用した理想的な「キャンペーン（署名活動）」のインパクトサイクル

大阪府保険医協会では社会保障の改善や、医療制度の改善反対など、様々な運動に取り組んでいます。この運動を進めるうえで大きな力になるのが「署名」の存在です。署名は政治に働きかけを行う際に欠かすことができない重要なものです。この署名について、誰もが簡単にインターネットで署名活動を始められることができる機会を提供するのが「チェンジ・ドット・オーグ」の取り組みです。このチェンジドットオーグの本版の代表である武村若葉（たけむらわかば）氏に、オンライン署名と従来の紙の署名との違いや、人々が声を上げることの重要性についてお話を伺いました。

【取材日 2020年7月16日】

「チェンジドットオーグ」とは、誰かが自分の思いや意見に価値があると信じられ、声に出して変化を起こすことが当たり前となる社会を目指して活動を行っておられる武村 勤めていた広報代理店を退職した後に、チェンジドットオーグの日本版を立ち上げたハリス鈴木絵美氏（現アジアディレクター）になりました。

「チェンジドットオーグ」は、2007年にアメリカの社会起業家ベン・ラトレイ氏によって社会にポジティブな変化を起こすために設立された「オンライン署名」のウェブサービスです。始まり、現在では265万人のユーザーがいます。たことがきっかけです。前職を通じてインターネットにはダイナミックさと可能性を感じていましたので、まだまだ知名度が少なかつた「オンライン署名」にも魅力と可能性を感じて関わりたいと思い、手伝うようになっています。

「チェンジドットオーグ」は、誰もが自分の思いや意見に価値があると信じられ、声に出して変化を起こすことが当たり前となる社会を目指して活動を行っておられる武村 勤めていた広報代理店を退職した後に、チェンジドットオーグの日本版を立ち上げたハリス鈴木絵美氏（現アジアディレクター）になりました。



紙の署名とオンライン署名の違いについて教えてください。

武村 紙の署名の強さは国民の権利として保障されている。請願権に乗った形で集めるものだからです。国や地方自治体は請願を受けて採決すべきかを審議し、その結果を請願した人に知らせなければならず、法的に無視することができません。現時点での日本の物理的に困難な場合であっても、スピーディーに声を上げることは可能です。

その一方で、オンライン署名は法的な「請願書」という扱いにすることが難しく、それが紙の署名を持つ大きな強みです。しかし、オンライン署名にも大きな強みはあります。オンラインでの署名は時世のトレンドにあつた運動が可能で、インターネットならではのスピード感と爆発的な拡散力が大きな強みです。紙を使って署名を集める場合は、どうしても「1対1」という対面での活動が中心になりますが、インターネットでは人から人へと共感が拡散されていきます。署名を集めたい当事者たちとは全く関係のない方たちからも賛同が集まりやすくなるのです。

また、妊婦さんや病気を患っている方たちなど、紙での署名を集めることが難しい場合でも、物理的に困難な場合であっても、スピーディーに声を上げることは可能です。

その一方で、オンライン署名は法的な「請願書」という扱いにすることが難しく、それが紙の署名を持つ大きな強みです。しかし、オンライン署名にも大きな強みはあります。オンラインでの署名は時世のトレンドにあつた運動が可能で、インターネットならではのスピード感と爆発的な拡散力が大きな強みです。紙を使って署名を集める場合は、どうしても「1対1」という対面での活動が中心になりますが、インターネットでは人から人へと共感が拡散されていきます。署名を集めたい当事者たちとは全く関係のない方たちからも賛同が集まりやすくなるのです。

また、妊婦さんや病気を患っている方たちなど、紙での署名を集めることが難しい場合でも、物理的に困難な場合であっても、スピーディーに声を上げることは可能です。

紙の署名とネット署名 双方の利点を活かす



チェンジドットオーグによる「オンライン署名」は社会に大きなインパクトを与えている

